



武蔵大インターンシップ生 選挙啓発企画第2弾！  
 ～大学生の熱い「マジ」が東京を動かす～  
 「主権者の付箋」を開発！

練馬区選挙管理委員会事務局は、武蔵大学（豊玉上 1-26-1、有馬朗人 学園長）のインターンシップ生8人と、先の参議院議員選挙から、引き続き選挙啓発活動に取り組んでいる。

第1弾となった参議院議員選挙（7月10日執行）では、選挙を身近に感じてもらえるよう「カワイイ、おもしろい、受け取ってもらいやすい」をテーマに、薬局の薬袋をモチーフにしたユニークな包装の「選挙に行きたくなる飴」を開発して、区民に好評を得た。

第2弾となる東京都知事選挙（7月31日執行）の啓発テーマは、「本気（マジ）」。前回の親しみやすい啓発の切り口とは打って変わって、自分たちの選挙に対する熱いメッセージを記載した「主権者の付箋」をオリジナルで制作した。

インターン生は、「今回のメッセージは、主権者として、自分と選挙と政治の関係性を考えた結果生まれてきたもの。しっかり1票の重要性を意識した大人になりたい」と話している。

制作した「主権者の付箋」は、インターン生の在籍する武蔵大学を中心に配布している。



主権者の付箋



選挙に行きたくなる飴

【選挙啓発の狙いについて】

今回のテーマは「本気（マジ）」。インターン生達は、啓発の狙いについて「前回の啓発グッズの飴の評判は良かったが、街頭で受け取ってもらえるだけでは、本当の選挙啓発といえるか疑問も残った。真の選挙啓発とは、有権者ひとりひとりが選挙や政治に対して、主体的になることだと思う。選挙は、私たちが主人公。今回のメッセージは、自分達が政治の主人公であることを意識した」と話す。

先の参議院議員選挙では、練馬区の10代の投票率が全国や東京都に比べてかなり高い結果となったため、区選挙管理委員会は今回の大学生のアイデアにも期待を寄せている。

練馬区選挙管理委員会事務局の担当者は、「若い大学生がここまで深く選挙や政治について考えることに驚いた。私たちが、彼らの発想から学ぶことは多い。選挙は投票者ひとりひとりが主人公という視点は非常に重要なので、今後の啓発活動にもこの発想を生かしていきたい」と語る。

【参考】7月10日執行 参議院議員選挙の投票率

投票率 年齢	練馬区 (%)	東京都 (%)	全国 (%)
18歳	64.08	60.53	51.17
19歳	57.72	41.44	39.66
10代計	60.70	51.11	45.45
全世代計	58.28	57.50	54.70

練馬区の18歳・19歳・10代計は在外選挙人を除く  
 東京都および全国投票率は速報値のため、確定値と異なる場合がある

【参考】「主権者の付箋」メッセージ抜粋

「わたしたちの選挙だ。僕たちの選挙だ。これからの日本は私たちがつくる。10分で日本は変えられる。選挙は一瞬、後悔は一生。まだ、お酒は飲めないけど、居酒屋行けないけど、選挙には行けるぞ18歳。選挙に行ったら、「真面目か」ってからかわれた...でも真面目でいいじゃないか！みんなまで正面から向き合おう。」